難しい文章を読むこと

ジャンプ課題の可能性

2019．02．01
No.50
校長　渡邉　幸二

最近、研究だよりが毎日のように机に乗っています。しかも、はじめは研究主任のＫ．Ｈ**さん**の実践だけだったのですが、最近はＳ．Ｋ**さん**の実践も多くなってきています。**面白いですね～！**楽しみで仕方ありません。絶対ホームページに載せて発信したほうがいいと思います。

子どもに有利な状況で学ぶ

内外教育１月２９日号に上智大の**奈須正裕先生**の、英語の授業づくりに関する寄稿がありました。上の見出しがタイトルなのですが、要するに、**子どもたちが得意とするようなことやよく知っていること**に関する英語の長文であれば、少々難しくても、英語力がさほどなくても読み込んでしまうし、英語で何とか表現してしまうということでした。

もちろん英語の表現には単語の綴りなどの間違いもあったそうですが、氏に同行した米国人に聞くと「問題なく通じる」ということだったそうです。それどころか、**「どうして日本人は単語のちょっとした間違いとか、文法でも細かなところばかりやたら気にするのかなあ。」**と言われたそうです。そんな表現上の些細なミスよりも、**重要なのは内容**ではないですかということを指摘されハッとしたということが書かれていました。実際、氏も留学生の書いた日本語での議論を聞いたり論文を読んだりする際、内容に注力していて、助詞の間違いをいちいち指摘はしないことに改めて気づかされ、英語学習の在り方について思いを馳せるというものでした。（詳しくは教務が印刷･配布してくれるでしょう）

クラスで下から２番目だった私

ザワ線には、キハ系のこんな編成車両が多かったな…

よく子どもたちにする話です。小学校時代の私は、遊び呆けてヘラブナ釣りだの鉄道だの伝書鳩だのに嵌っていました。「**夢中だった**」のです。勉強はできませんが、好きなことに関する本は、子ども向けはつまらないので大人向けの雑誌「ヘラブナ」とか、鉄道に関しては分厚い時刻表を毎月買ってながめていました。図書館で読むのはもっぱら鉄道や動物、魚の図鑑ばかりで、担任の先生のおススメする文学など全く読めない子どもだったと記憶しています。

つまり、**少々難しい課題であっても、子どもたちの興味･関心の高い課題であったら、それはまさしくオーセンティックな課題となり**、放っておいてもきっと夢中で取り組むような気がします。その学びの中で、言葉を覚えたり考え方を身につけたりしてきたのでしょう。**一見難しそうでも、夢中になっているうちに学びが高まっていく･･･それが「ジャンプ課題」の効果**なのではないでしょうか。